

[撮影] 武藤 章 [取材] 森岡 葉

久元祐子  
ピアノリサイタル  
ウイーンの至宝、ピラミッド・マホガニーをお披露目  
苦難を乗り越えた先の光を見出したりサイタル

日本で唯一のベーゼンドルファー・アーティス  
ト、久元祐子さんのために制作された〈280VC  
ピラミッド・マホガニー〉のお披露目となるリサ  
イタルが、2020年11月12日、紀尾井ホールで  
開催されました。ベートーヴェン生誕250年に



寄せて、若き日のベー  
トーヴェンが憧れ、影  
響を受けたモーツアル  
トのソナタとベートー  
ヴェンの傑作ソナタを  
組み合わせた珠玉のブ  
ログラムを、ウイーン

の香り豊かに名器で味  
わう至福のひとときとなりました。

深い陰影とドラマティックな魅力にあふれた  
モーツアルト『幻想曲KV457』『ピアノ・ソ  
ナタKV457』で幕を開けた前半のステー  
ジ。ピラミッド・マホガニー

の美しい木目に覆われた

280VCから多彩な響き  
を引き出し、「ユアンスに富  
んだ精緻な音楽を楽しませ  
てくれました。続いて同じ

ハ短調のベートーヴェン『ピ  
アノ・ソナタ「悲愴』。第

1楽章の序奏部の莊重な和  
音から、作品世界に惹き込  
まれてきます。第2楽章  
の抒情的な主題、第3楽章  
の緊張感に満ちたロンドま  
で、モーツアルトに影響を  
受けた初期のベートーヴェ

#### 久元祐子さんインタビュー

伝統的なウィンナー・トーンの温かな響きを引  
き継ぎながら、想いを直に伝えてくれる敏捷さと  
パワーを併せ持ったオーナー・ワンの楽器〈280VC  
ピラミッド・マホガニー〉が2019年12月に届き  
ました。コロナ禍のため多くの演奏会が中止にな  
るなかで、当たり前の日常がいかに貴重なものだっ  
たのかを痛感しながら、この楽器の弾き込みに加  
え、ブロードウッド(1810年頃製)などベートーヴェ  
ンの時代のフルテピアノを弾き、「作曲家が愛し  
た楽器からアプローチする演奏法—ベートーヴェ  
ン」(学研プラス)を執筆しました。

紀尾井ホールは残響が豊かで、ホールも楽器の  
一部ということを実感し、あらためて〈280VC ピ  
ラミッド・マホガニー〉の生き生きとしたダイナミッ  
クな表現力に驚きました。苦悩を乗り越えて作曲  
された『ワルトシュタイン・ソナタ』を聴衆の皆  
様と分かち合うことで、現在の困難を乗り越えた  
先に、新たな光を見出したいと心から願っており  
ます。

ノのみずみずしい情熱が鮮やかに描  
き出されました。  
後半は、ベートーヴェン『アンダ  
ンテ・ファヴォリ』『ピアノ・ソナタ「ワ  
ルトシュタイン』。『ハイリゲンシュ  
タットの遺書』を書いた後、難聴と  
いう苦難を乗り越えて新たな境地に  
入ったベートーヴェンのエネルギー  
に満ちた音楽が、重厚な低音から煌  
めくような高音まで幅広い音域のダ  
イナミズムを活かし、輝かしく繰り  
広げられました。

鳴り止まない拍手に応えて、アン  
コールはベートーヴェン『エリーゼのために』、そ  
してチャイコフスキイ『四季』より『秋の歌』、  
グリーグ『アリエッタ』。演奏が終わつた瞬間、静  
謐な空間に大きな感動が沸き起こりました。

